

R2 全校朝会（11月16日）校長講話「感染予防をしっかりと～アマビエの話から～」

まずは、担任の先生に一枚の絵を黒板に貼っていただきます。
この絵を見たことがある人もいるかと思います。
鳥のようなクチバシを持ち、胴体には魚のようなウロコ。3本足で立っている…なんとも奇妙な姿をしています。
これは、アマビエと言って、妖怪の仲間です。
妖怪とは、人間の力を超えた不思議な力をもつ化け物のことで、“もののけ”とも呼ばれています。
昔から受け継がれてきている日本の民話に登場するもので、実際に見た人はいません。
河童や天狗なども妖怪の仲間です。



なぜこの妖怪アマビエが最近よく話題にされるようになったか、それは、このアマビエがもつ能力に関係します。

このようなお話が受け継がれています。

昔、肥後国、今の熊本県の海から、毎夜、光るものが表れるという噂が人々の間で流れるようになりました。

そこで、その事実をつきとめようと、役人が見に行くと、この絵のような者が海から現れたというのです。そして、このように言ったそうです。

「私は、海の中に住む“アマビエ”という者である。今年から、6年間は、作物がよく実る年が続く。しかし、病気も流行するであろう。もし病気がはやったら、すぐに私の姿を絵に写し、人々に見せなさい。そうすれば病気はおさまるだろう。」

この絵は、アマビエに会った役人が、江戸にもどって人々に伝えるために書いた絵とされています。

ただ、もっと古い資料を見ると、同じく病気をしずめる「アマビコ」という妖怪がいたようで、「コ」の文字を「エ」と間違え、アマビエとして伝えられてしまった説もあります。確かに似ていますね。

今年の2月末から、新型コロナウイルス感染症が日本でも流行し始めました。

早くこの病気が収まってほしいという願いは皆同じです。

そこで、病気をしずめる力をもつ妖怪アマビエ、もしくはアマビコが、取り上げられるようになったのだと思います。

まだ、科学や医療が発達していなかった時代に、原因が分からない命に関わる病気が流行ったとき、人々が、藁（わら）にもすがりたい思いで、このような実際には存在しない妖怪の言葉にさえ、救いや助けを求めたくなった気持ちもわかります。

しかし現在は、きちんと手洗いをして、空気の入替えをして、密をさけた行動をとってれば、感染を防げることは分かっていますし、病気を治す方法の研究も進められているので、妖怪にすぎらなくても大丈夫ですね。

先週から、感染者の数がまた増えてきています。

流行が長く続き、感染を予防するための気持ちが最近ちょっと緩んでしまったなと思う人がいるかと思っています。

今一度、手洗い、マスクなど、「自分ができること」をしっかりと行ってほしいと思います。